—特集—

もくもく、と生きる。

大きな岐路

「もくもく」の愛称で親しまれ、登米市林業振興のシンボル的存在である道の駅津山「もくもくランド」。今、その「もくもくランド」の存在価値が問われています。

三陸沿岸道路（三陸道）の延伸により、もくもくランドの通過交通量が激減。それに比例して、客数や売上額も減少を続けています。また、店の顔ともいえる木工芸品を製作する職人の後継者不足も深刻化。さらに追い打ちをかけるように、令和元年東日本台風が施設に甚大な被害を及ぼし、今もなお、多くの人たちが復旧・復興に向けて尽力しています。

大きな岐路に立っている「もくもくランド」の存在価値と旧津山町から続く歴史、そして未来の姿を、さまざまな人たちの思いをつづりながら考えます。

木の性質を見極めながら、黙々と商品作りに取り組む木工職人

◉実は林業も盛んな登米

農林水産省が毎年公表している農業産出額が、青森県弘前市に次ぎ東北第２位を誇り、コメや畜産などを中心に農業が盛んな本市ですが、実は林業も盛んなまちです。

登米市は、市東北部の津山、登米、東和地域に豊かな森林が広がっており、市全体の約４割を森林面積が占めています。建材を生産するために植林された人工林の割合は70％と、県平均の54％を大きく上回っています。

◉東京五輪に認証材供給

本市では、森林の適切な管理・経営を推進するため、国際認証「FSC森林管理認証」を取得しています。

森林経営管理の国際認証を取得しているのは県内では隣の南三陸町と本市だけです。市有林を含めた森林の認証面積は約9200㌶と県内一で、認証材の一大産地となっています。

こうした取り組みにより、2020東京オリンピック・パラリンピックで、選手の交流エリアとして東京・晴海に整備された「選手村ビレッジプラザ」の建材に、県内で唯一、本市の認証材が使用されています。

◉「森の町」で朝ドラ舞台

2021年春から放送予定のNHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」で、本市が舞台の一つに。

「おかえりモネ」は本市と気仙沼市、東京都が舞台となる現代ドラマ。ヒロインの永浦百音（もね）が気象予報という天気にとことん向き合う仕事を通じて、人々に「幸せな未来」を届けていく希望の物語です。

本市は、ヒロインが「森の町・登米」で、林業や山林ガイドの見習いをしながら青春時代を過ごすという設定。この秋、市内各地でロケが行われました。

── 特集CONTENTS ──

第１章　危機
１売上額減少と後継者不足
２追い打ちをかけた台風被害
３駆け付けた多くの思い

第２章　存在
１私たちにとっての「もくもく」
２「もくもく」と歩んだ道のり
３木を生かす達人たち

第３章　未来
１「もくもく」に描く未来
２「もくもく」に懸ける夢
３復旧、そして復興に向けて